

暮らし

引き継がれる価値「輪島塗」

春蘭の里では輪島塗のお膳と器を使っています。日本を代表する伝統工芸品である輪島塗は、使うほどにつやが増し、欠けたときは修理も可能で、何代にもわたって使うことができます。



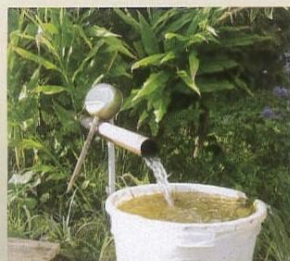
豊作への祈り「キリコ祭り」

豊作への感謝と祈りを込めてキリコを担ぐキリコ祭り。春蘭の里でも、長い間休んでいたキリコが2010年に復活。笛太鼓の音とキリコの灯りは、集落の心を熱くします。



いのちの源「水」

春蘭の里では暮らしに使う水が豊かです。道沿いに、歩く人の喉を潤すために山から引いている水もいたるところに見られます。



伝説

里山の人々は自然に畏敬の念を持ちながら生活してきました。「上り鮭の伝説」、「唐杉伝説」など、自然を敬う気持から生まれた伝説が今も伝えられています。

里山をつかう「薪と炭」

かつては里山から生活に欠かせない燃料を得ていました。今でも一部の家で、お風呂やストーブの燃料として薪が使われています。



語らいの場「囲炉裏」

日本の家には暖を取るため、調理をするために囲炉裏がありました。その暮らしのシンボルとして、農家民宿には囲炉裏が必ずあり、お客さんと語らう大切な場所となっています。



里山の風景

白壁・黒瓦の家々と田畑が織り成す風景は日本の原風景とも言えます。春蘭の里では、その風景を守っていくための取り組みを行っています。



グリーン・ツーリズム

畑仕事や山仕事、里山での暮らし体験。豊かな自然の中で地域の人と交流に、さまざまな体験ができます。春蘭の里での本物の体験は、暮らしの価値に気付くきっかけになります。



食

里山の恵み「山菜」

春にはいろいろな山菜が採れます。里山の恵みを分かち合い、来年も収穫できるようにルールを守って採っています。

はざ干し

田んぼの畔の「はざ」に稲を一束ずつ掛けて乾燥させる昔ながらの農法でお米を作っています。



川魚

山田川の中流では、ヤマメやウグイなど、溪流系の魚がすんでいます。「鮭尾」という地名通りかつては鮭も遡上していました。



自然

春蘭

「春蘭の里」のシンボル、春蘭。人手が入った明るい里山にしか咲かない春蘭は人と自然の関係度を表す「里山のバロメーター」です。



生きもの

ホタルやムカシトンボ、カブトムシなど四季折々の生きものを野や山、川で観察することができます。

里山の恵み「キノコ」

里山にはさまざまなキノコが生えます。それぞれ味や香りに特徴があり、季節を彩る里山の恵みです。また、キノコは森の環境にとっても欠かせない存在です。



くらしの知恵「保存」

山菜やキノコは塩漬けにしたり乾燥させたりすることで長い間保存でき、その味を1年中楽しめます。



鹿桜リニューアルプラン

コブシ

冷暖房・バス・トイレ・流し付